

科目名		授業形態	担当教員名	
地域作業療法学		講義	小田 佳子・大浦 由紀・猪川 俊博	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
障がいがあっても、地域で共に生活をしてゆくことは、リハビリテーションの目指すところである。その中で作業療法士へのニーズは高まってきている。この授業では、実際に地域で活躍している作業療法士から地域での役割や実際について学ぶ。また、地域高齢者の在宅生活を支える上で作業療法士の持つべき視点を理解できるように地域高齢者の心身機能の低下の状況や生活上の不具合の特徴を説明し、作業療法士としてすべき評価やアプローチと他職種との連携、介護保険の仕組みやそのサービス実践例を紹介する。精神科分野では、障害者総合支援法による精神障害者の地域リハの理論と実践を作業療法の視点から理解を深める。				
授業の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域リハビリテーションについての基盤、背景について説明することができる。 2. 地域高齢者の心身機能の低下の状況や生活上の不具合の特徴を説明できる。 3. 地域高齢者の心身機能だけでなく個人・環境因子など広い視野で評価し、その人が望む生活を送ることができるようにするためのアプローチ方法を具体的に述べるができる。 4. 地域で生活される方を支援するための制度について説明ができる。 5. 多職種と連携して支える多様なサービスの中での作業療法士の役割の説明ができる。 6. 地域リハの理論・実践を理解し、ケアマネジメントとしての支援計画を立てることができる。 				
授業計画				
回	内容			
1	地域リハビリテーションの定義と歴史 【小田】			
2	高齢者に関わる制度について 介護保険と高齢者福祉① 【小田】			
3	高齢者に関わる制度について 介護保険と高齢者福祉② 【小田】			
4	地域での作業療法士の役割と実際 【小田】			
5	ケアプランについて 【小田】			
6	地域高齢者の心身機能の低下と生活の不具合の特徴に合わせた評価とアプローチ 【大浦】			
7	介護保険制度の多様なサービスとその概要と実践例 【大浦】			
8	通所介護サービスの実例（1） 【大浦】			
9	通所介護サービスの実例（2） 【大浦】			
10	精神障害者の地域リハビリテーション概論 【猪川】			
11	地域活動支援センターでの実践 ー遊び、社会参加の支援ー 【猪川】			
12	グループホームでの実践 ーくらしの支援ー 【猪川】			
13	就労支援事業所での実践 ー働くことの支援ー 【猪川】			
14	支援計画立案① ストレングスモデルでの評価 【猪川】			
15	支援計画立案② ストレングスモデルでの支援計画 【猪川】			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	35% (小田)	介護保険制度と高齢者福祉についての理解度を評価する		
レポート	25% (大浦)	地域高齢者・精神障害者の心身や生活の特徴について理解し、担うべき役割を具体的に説明できる		
レポート	40% (猪川)	設定したテーマに対して、学習した内容をふまえ、学生独自の視点で課題解決を述べるができる		
平常点				
その他				
自由記載	定期試験（小田担当分）が60%に満たない場合は、再試験対象とする。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
身体機能作業療法学	山口昇	医学書院		
老年期の作業療法（改訂 第3版）	浅海奈津美	三輪書店		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
高齢者と積極的にコミュニケーションをとってほしい。訪問看護や通所介護など高齢者の在宅生活を支えるサービスに興味を抱いて欲しい。				